

三浦半島の地質を訪ねて：冬季巡検報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 国雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025598

三浦半島の地質を訪ねて

——冬季巡検報告——

加藤 国雄*

昭和54年の冬季巡検は、南関東に発達する第三系、第四系の岩相、構造、化石等を主な見学目的として、三浦半島まで足をのばして実施された。三浦半島の第三系、第四系の層序は、漸新—中新統と考えられている葉山層群を基盤とし、三浦層群（中新統中・上部）が不整合で葉山層群をおおっている。この不整合は、田越川不整合と呼ばれる著名なものである。三浦半島の南部では、北西—南東方向の2つの断層、武山断層と南下浦断層を北側と南側の境界として、第三系の中にはさまれて第四系の宮田層が分布している。

マイカー方式で行われたが、見学地がやや遠隔地であったため、集合時刻

は昼に近くなってしまい初日は半日余りしか見学できなかった。それでも池谷会員の案内によって、重要なポイントを能率よく観察することができ、夜は又、宿舎にてゆっくりと落ち着いて説明を聞いたり話し合いをすることができた。2日目の朝は小雨模様であったが、参加者の意気によって(?) 天気も次第に回復し、無事見学を終える事ができた。以下にその概略を述べたい。

日程 1979年12月23日～24日

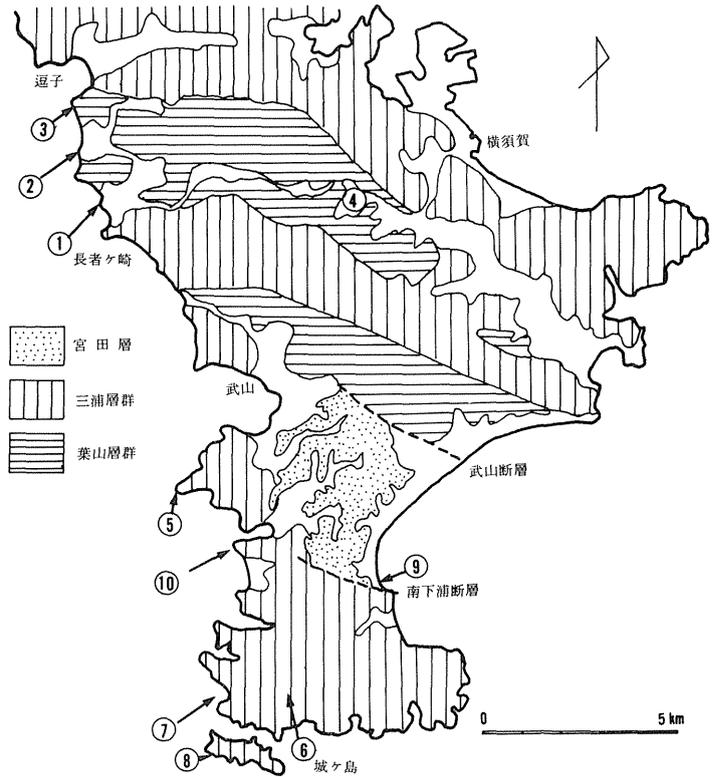
案内者 池谷仙之 会員 (静大)

参加者 浜田、舞木、渡辺、飯田、高木、久保田、兼高、大塚、清水、大久保、岩橋、土屋、池谷、高橋、相原、加藤 各会員、他学生5名

[1日目]

①長者ヶ崎付近

集合地 (長者ヶ崎の駐車場) から北へ徒歩で、海岸沿いに葉山御用邸の前を通り、小さな岬の先端へ出た。ここは下部の葉山層群と上部の逗子層 (三浦層群) が不整合の関係で接している。不整合面の上位2～3mの所には、典型的な shell sand が見られ、石灰質で固結している。すぐ近くには逗子層内での差別侵食が観察でき、固いスコリア質の部分よりも柔らかいパミス質の部分が多い多くの侵食を受けている様子がわかる。



* 静岡雙葉高校

次に海岸線に戻って見たのは、長者ヶ崎のまわりであった。波打ちぎわには粗粒砂岩があり、この中には自形に近い角閃石が相当濃集していて、一見閃緑岩のようにも見えた。そこから20～30 mほど離れた所にある崖は、小規模な断層を伴う見事な互層であり、多くの教科書等にも載せられている(写真1)。

② 森戸海岸

森戸神社に車を止めて海岸に出ると、シルト岩(葉山層のもの)を急角度に切っている sand dike がある(写真2)。Sand dike は、柔かい堆積物が変動により口をあけて、そこに砂が流れ込む場合などに生じると言われている。写真では、暗く写っている部分が dike で、暗灰色の粗粒砂岩である。より白く写っている部分はシルト岩である。露頭での観察によって、この dike は少くとも 10 m ほど続く事がわかった。

③ 鏡摺あぶずるの不整合

海岸沿いの道路から海側へ数 m はいった所には、有名な鏡摺の不整合がある。逗子市教育委員会によって立派な説明板が備えつけられているこの不整合面の下部は葉山層、上部は逗子層で田越川不整合が模式的に見られる地点として古くから知られているとのことである。不整合面はおよそ北西に傾斜し、基底礫岩と shell bed がよく観察される。

次の④池上四丁目へ行く途中の道路沿いで、安山岩の dike を観察した。ここは長い間砂岩層であると思われていた所で、安山岩である事がわかったのはつい最近であるとの話であった。

④ 池上四丁目

池上四丁目という所にある小さな丘では、葉山層に貫入している超塩基性岩が見られた。これは、房総半島に分布する超塩基性の貫入岩と一連のものである。風化によりサンプリングしようと思っても小さく割れてしまうが、暗緑色で美しい色調を持っている。又、この岩石中には白い模様を作り出す脈状物質がきれいに見られたが、案内者の説明によると、この脈は滑石よりできているとの事であった。

〔2日目〕

⑤ 荒崎

前夜の予定通りに出発して国道134号線を南進し、横須賀市の南端に近い荒崎へ着いた。車を降りて小雨の中を磯浜まで歩くと、そこには差別侵食を受けた見事な海岸が一行を待ち受けていた

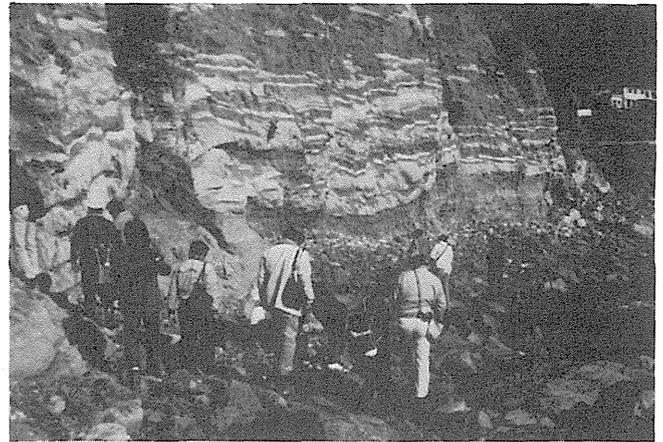


写真1 長者ヶ崎の逗子層



写真2 森戸海岸の Sand dike

(①長者ヶ崎のものより規模が大きく明瞭である)。やはり、スコリア質の部分が固くて、侵食によく耐えていた。又、同じ所に2つの方向性を持つ小さな断層があった。ずれた距離は地表での見かけ上は数mくらいで何本もあった。水面に近い所には現生のレーベンシュプーレン(貝のすみ穴)があり、その成因についても池谷会員の説明を聞いた。

⑥ 諸磯^{もろいそ}隆起海岸

三浦市にはいり、さらに南進して着いたのは諸磯にある隆起海岸であった。検潮所で知られる油壺湾の南隣りには、現在の諸磯湾があるが、関東大地震の前はもっと奥まで諸磯湾であったという。つまり、関東大地震に伴う隆起によって、湾の一部が陸化したのである。陸化した土地の大部分は現在水田に利用されているが、その水田と山の間の一箇所、昔の海水面を知る手がかりが見られた。それは、横に並んだ boring shell の穴である。今回の巡検では、新しい時期の2水準の列が確認できたが、もっとくわしい調査では4水準確認されているそうである。これらによって、地史上何回も断続的に隆起した事がわかる。

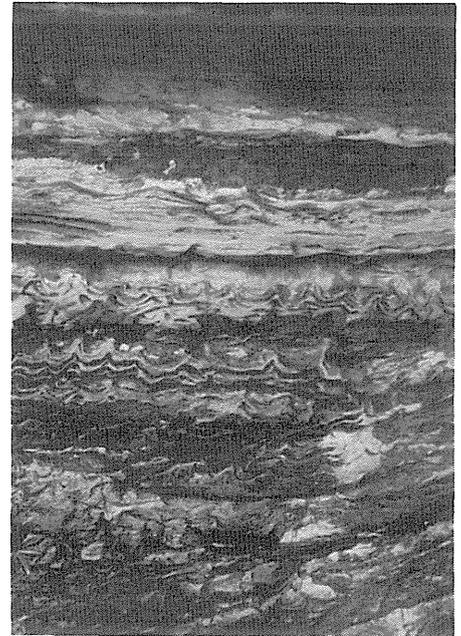


写真3 白石町の漣痕

⑦ 白石町^{れんこん}の漣痕

諸磯からは、さらに南進して城ヶ島へ向かった。その途中海外町では海食洞を観察した。ここではスランピングやソールマークなどについて、池谷会員の説明があった。そこからわずか、南隣りにある白石町の海岸には、神奈川県指定天然記念物の漣痕が、芸術的とも言えるほどのすばらしい模様を作り出していた(写真3)。

⑧ 城ヶ島

城ヶ島は観光地で多くの店が並んでいた。昼食を済ませてからみやげ物屋が並ぶ中を通り抜け、差別侵食の発達している広い隆起した磯へ着いた。そして、ここでもいくつかの堆積構造を見ることができた。ロードキャスト・捕獲泥などである。又、直径2m近くのポットホールが2つあり、潮だまりとなっていた。



写真4 南下浦断層

⑨ 皆ヶ久保

次は東海岸に出て、皆ヶ久保という所へ行った。南下浦小学校の裏手にある露頭では、活断層(南下浦断層)が見られた(写真4)。写真中、断層の左側(南側)が初声火砕岩層(三浦層群)、右側(北側)が宮田層である。この断層は大規模で、三浦半島南部を東西に横切っている。

⑩ 一町田

南下浦断層を北へ越えて宮田層へ入り、大森遺跡に寄った後一町田という所についた。人家のある所と、そこから

徒歩で5分ほど行った所2ヶ所で、宮田層に含まれている貝化石を全員でサンプリングした。クラミス、ペクテンや各種の巻貝がとれた。

このあと国道に出て、太陽も傾いた頃、武山駐屯地の近くにある宮田層と下位の葉山層の不整合を一ヶ所見学して、現地解散となった。

今回の巡検で得たものは、参加者の一人一人にとって大きな糧となる事と思われます。このように有意義な巡検で、終始適切な指導と説明を下された池谷会員と、企画して下さった方々に深くお礼を申し上げます。

会 告

- 来たる11月に本年度の年会を行うことになっています。年会での研究発表者を募集しますので、御希望の方は支部長宛、御連絡下さい。
- 静岡地学42号は11月に発行予定です。原稿が足りませんので、奮って御投稿下さい。内容は学術論文とは限らず、多彩なものを希望します。
- 「遠足の地学」(仮題)の編集委員、調査委員を募集します。若くて張切っている人、大いに参加して下さい。